

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6220819号
(P6220819)

(45) 発行日 平成29年10月25日 (2017.10.25)

(24) 登録日 平成29年10月6日 (2017.10.6)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/49 3 1 1 Z

A 6 1 F 13/496 (2006.01)

A 6 1 F 13/49 3 1 2 Z

A 6 1 F 13/51 (2006.01)

A 6 1 F 13/496

A 6 1 F 13/514 (2006.01)

A 6 1 F 13/51

A 6 1 F 13/514 3 2 1

請求項の数 7 (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2015-128307 (P2015-128307)

(22) 出願日 平成27年6月26日 (2015.6.26)

(65) 公開番号 特開2017-6576 (P2017-6576A)

(43) 公開日 平成29年1月12日 (2017.1.12)

審査請求日 平成29年7月26日 (2017.7.26)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地

(74) 代理人 110000176

一色国際特許業務法人

(72) 発明者 中嶋 海陽

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

(72) 発明者 梨子木 健人

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

縦方向と横方向と前後方向とを有する吸収性物品であって、

前記縦方向に沿った吸収性本体と、

前記横方向に沿ったベルト部と、を有し、

一対の脚回り開口部が形成されており、

前記縦方向の上方側から前記一対の前記脚回り開口部に向かって、前記横方向外側へ傾斜した、少なくとも前記吸収性本体及び前記ベルト部を接合する一対の接合部が、前方及び後方にそれぞれ設けられており、

前記吸収性本体は、

液体を吸収する吸収体と、

前記吸収体よりも肌側に配置された液透過性の肌側シートと、

前記吸収体よりも非肌側に配置された外装シートと、

前記吸収体と前記外装シートとの間に配置された液不透過性の非肌側シートと、を有し、

前記前後方向のうち少なくとも一方側における前記一対の前記接合部の前記横方向の間に、別体シート部材が設けられており、

前記別体シート部材は、前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域と重なる部分を有し、

前記別体シート部材は、前記吸収体よりも前記肌側に設けられている

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の吸収性物品であって、

前記別体シート部材は、前記吸収性本体に接合されていない非接合部を前記縦方向の下端側に有し、

前記非接合部と前記吸収性本体との間には、前記縦方向の下方に開口する空間が形成されている

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の吸収性物品であって、

前記非接合部には、弾性部材が前記横方向に伸長された状態で接合されている

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 4】

縦方向と横方向と前後方向とを有する吸収性物品であって、

前記縦方向に沿った吸収性本体と、

前記横方向に沿ったベルト部と、を有し、

一对の脚回り開口部が形成されており、

前記縦方向の上方側から前記一对の前記脚回り開口部に向かって、前記横方向外側へ傾斜した、少なくとも前記吸収性本体及び前記ベルト部を接合する一对の接合部が、前方及び後方にそれぞれ設けられており、

前記吸収性本体は、

液体を吸収する吸収体と、

前記吸収体よりも肌側に配置された液透過性の肌側シートと、

前記吸収体よりも非肌側に配置された外装シートと、

前記吸収体と前記外装シートとの間に配置された液不透過性の非肌側シートと、を有し

、
前記前後方向のうち少なくとも一方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間に、別体シート部材が設けられており、

前記別体シート部材は、前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域と重なる部分を有し、

前記別体シート部材は、前方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間、及び後方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間に、それぞれ設けられており、

前記前方側の前記別体シート部材及び前記後方側の前記別体シート部材のうちいずれか一方は、前記吸収体よりも前記非肌側に設けられ、他方は、前記吸収体よりも前記肌側に設けられている

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の吸収性物品であって、

前記一方の前記別体シート部材は、少なくとも一部に色が付された状態で前記外装シートよりも前記非肌側に設けられており、

前記前方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色と前記後方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色とが異なっている

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域は、非伸縮領域である

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記別体シート部材は、前記一对の接合部によって、前記吸収性本体及び前記ベルト部

と一体に接合されている
ことを特徴とする吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、吸収性物品として、一つのウエスト開口部及び一对の脚回り部を有する、いわゆるパンツ型の使い捨ておむつが知られている。例えば、特許文献1には、脚回り部の外側縁に沿ってレッグギャザー部が形成された吸収性本体（おむつ本体）と、吸収性本体の幅方向の両側に配設された一对のウエストベルトとを備えたものが開示されている。

10

【0003】

特許文献1に記載の使い捨ておむつにおいて、吸収性本体は、着用者の肌に接する側に配設された透液性表面シートと、着用者の肌に接する側とは反対側に配設された不透液性裏面シートと、透液性表面シート及び不透液性裏面シートの間に封入された液吸収体とを積層して構成されている。一对のウエストベルトはそれぞれ、長手方向の両端が吸収性本体の幅方向の両端縁にそれぞれ接合されている。一对の接合部分は、幅方向の外側に向かって傾斜している。これら一对の接合部分の幅方向の間において、吸収性本体は、液吸収体が設けられていない領域を有している。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開平9-290003号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献1に記載のものでは、着用者の腹側中央及び背側中央に相当する一对の接合部分の幅方向の間において、吸収性本体が、液吸収体が設けられていない領域、すなわち液吸収体が設けられている領域よりも剛性の低い領域を有していることにより、着用時において当該剛性の低い領域によれや皺が発生しやすい。そのため、着用者の肌にフィットしづらく、着用者へ違和感を与えたり、外観上の印象が損なわれたりする等の問題が生じやすかった。

30

【0006】

本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、吸収性本体におけるよれや皺の発生を抑制して、フィット性を向上させると共に、外観上すっきりとした印象を与えることが可能な吸収性物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を達成するための主たる発明は、縦方向と横方向と前後方向とを有する吸収性物品であって、前記縦方向に沿った吸収性本体と、前記横方向に沿ったベルト部と、を有し、一对の脚回り開口部が形成されており、前記縦方向の上方側から前記一对の前記脚回り開口部に向かって、前記横方向外側へ傾斜した、少なくとも前記吸収性本体及び前記ベルト部を接合する一对の接合部が、前方及び後方にそれぞれ設けられており、前記吸収性本体は、液体を吸収する吸収体と、前記吸収体よりも肌側に配置された液透過性の肌側シートと、前記吸収体よりも非肌側に配置された外装シートと、前記吸収体と前記外装シートとの間に配置された液不透過性の非肌側シートと、を有し、前記前後方向のうち少なくとも一方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間に、別体シート部材が設けられており、前記別体シート部材は、前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域と重なる部分を有し、前記別体シート部材は、前記吸収体よりも前記肌側に設けら

40

50

れていることを特徴とする吸収性物品である。本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、吸収性本体におけるよれや皺の発生を抑制して、フィット性を向上させると共に、外観上すっきりとした印象を与えることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の第1実施形態に係るおむつの外観を示す概略斜視図である。

【図2】図2Aは吸収性本体の長手方向に沿って伸長させた状態のおむつを示す平面図であり、図2Bは図2AのII B - II B線断面図である。

10

【図3】図3Aは製造工程の途中におけるおむつの展開状態を示す平面展開図であり、図3Bは図3AのIII B - III B線断面図である。

【図4】図4A及び図4Bはおむつの概略平面図であり、図4Aはおむつを前方から見た場合、図4Bはおむつを後方から見た場合を示している。

【図5】おむつを縦方向に切断した場合の断面模式図である。

【図6】図6A及び図6Bは、本発明の第2実施形態に係るおむつを示し、図6Aは製造工程の途中におけるおむつの展開状態を示す平面展開図であり、図6Bは図6AのVI B - VI B線断面図である。

【図7】本発明の第2実施形態に係るおむつを縦方向に切断した場合の断面模式図である。

20

【図8】本発明の第3実施形態に係るおむつを縦方向に切断した場合の断面模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

【0011】

縦方向と横方向と前後方向とを有する吸収性物品であって、前記縦方向に沿った吸収性本体と、前記横方向に沿ったベルト部と、を有し、一対の脚回り開口部が形成されており、前記縦方向の上方側から前記一対の前記脚回り開口部に向かって、前記横方向外側へ傾斜した、少なくとも前記吸収性本体及び前記ベルト部を接合する一対の接合部が、前方及び後方にそれぞれ設けられており、前記吸収性本体は、液体を吸収する吸収体と、前記吸収体よりも肌側に配置された液透過性の肌側シートと、前記吸収体よりも非肌側に配置された外装シートと、前記吸収体と前記外装シートとの間に配置された液不透過性の非肌側シートと、を有し、前記前後方向のうち少なくとも一方側における前記一対の前記接合部の前記横方向の間に、別体シート部材が設けられており、前記別体シート部材は、前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域と重なる部分を有する吸収性物品が明らかとなる。

30

【0012】

このような吸収性物品によれば、着用者の腹側中央及び背側中央に相当する一対の接合部の間に設けられた別体シート部材が、吸収体が設けられていない領域、すなわち吸収体が設けられている領域よりも剛性の低い領域、と重なる部分を有しているため、当該吸収体が設けられていない領域の剛性が高まり、着用時における吸収性本体のよれや皺の発生を抑制してフィット性を向上させることができる。これにより、外観上も、すっきりとした印象を与えることができる。

40

【0013】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前記吸収体よりも前記非肌側に設けられていることが望ましい。

【0014】

このような吸収性物品によれば、例えば尿などの排泄液を吸収する吸収体よりも非肌側

50

に別体シート部材が設けられている場合、吸収体が設けられた領域と重なる部分を別体シート部材が有していてもよく、別体シート部材が吸収体よりも肌側に設けられた場合（吸収体が設けられた領域と重ならないように考慮すべき場合）と比べて、より大きい別体シート部材を用いることが可能となるため、吸収性本体のより広い領域において剛性が高まり、着用時におけるよれや皺の発生をより抑制してフィット性を向上させることができる。これにより、外観上も、よりすっきりとした印象を与えることができる。

【0015】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前記吸収体と前記外装シートとの間に設けられていることが望ましい。

【0016】

このような吸収性物品によれば、別体シート部材が吸収体と外装シートとの間に設けられており、外部に露出していないため、外観において、別体シート部材が目立つことなく、よりすっきりとした印象を与えることができる。

【0017】

かかる吸収性物品であって、少なくとも一部に色が付された前記別体シート部材が、前記外装シートよりも前記非肌側に設けられており、前方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色と後方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色とが異なっていることが望ましい。

【0018】

このような吸収性物品によれば、色の異なる別体シート部材を外装シートよりも非肌側に設けることにより、別体シート部材が外部から容易に視認できるようになるため、当該別体シート部材に付された色を基にして本吸収性物品の前後方向の判断がしやすくなる。

【0019】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前記吸収体よりも前記肌側に設けられていることが望ましい。

【0020】

このような吸収性物品によれば、別体シート部材が吸収体よりも肌側に設けられており、外部に露出していないため、外観において、別体シート部材が目立つことなく、よりすっきりとした印象を与えることができる。

【0021】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前記吸収性本体に接合されていない非接合部を前記縦方向の下端側に有し、前記非接合部と前記吸収性本体との間には、前記縦方向の下方に開口する空間が形成されていることが望ましい。

【0022】

このような吸収性物品によれば、非接合部と吸収性本体との間に縦方向の下方に開口する空間が形成されていることにより、吸収性本体の表面を伝った尿等を当該空間にて受け止めることができ、尿等の漏れを抑制することができる。さらに、例えば本吸収性物品に吸収パッドを用いるような場合であっても、当該空間に吸収パッドの長手方向の端部を収容することができるため、吸収パッドを収容する空間を別途設ける必要がない。

【0023】

かかる吸収性物品であって、前記非接合部には、弾性部材が前記横方向に伸長された状態で接合されていることが望ましい。

【0024】

このような吸収性物品によれば、非接合部と吸収性本体との間に形成された空間に例えば吸収パッドの長手方向の端部を収容する場合であっても、非接合部に弾性部材が接合されていることにより非接合部が横方向に収縮し、当該空間内に収容される吸収パッドの端部との間の隙間が埋まるため、吸収パッドの端部の当該空間内からの抜け落ちを抑制することが可能となる。

【0025】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前方側における前記一对の前記接

10

20

30

40

50

合部の前記横方向の間、及び後方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間に、それぞれ設けられており、前記前方側の前記別体シート部材及び前記後方側の前記別体シート部材のうちいずれか一方は、前記吸収体よりも前記非肌側に設けられ、他方は、前記吸収体よりも前記肌側に設けられていることが望ましい。

【0026】

このような吸収性物品によれば、前方側と後方側とにおいて、別体シート部材を設ける位置を変えることにより、前方側及び後方側の構造の違いを基にして着用時における本吸収性物品の前後方向の判断がしやすくなる。

【0027】

かかる吸収性物品であって、前記一方の前記別体シート部材は、少なくとも一部に色が付された状態で前記外装シートよりも前記非肌側に設けられており、前記前方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色と前記後方側における前記一对の前記接合部の前記横方向の間の領域の色とが異なっていることが望ましい。

【0028】

このような吸収性物品によれば、吸収体よりも非肌側に設けられた別体シート部材に色を付して、外装シートよりもさらに非肌側に設けることにより、別体シート部材が外部からより簡単に確認できるようになるため、当該別体シート部材に付された色を基にして着用時における本吸収性物品の前後方向の判断がよりしやすくなる。

【0029】

かかる吸収性物品であって、前記吸収性本体のうちの前記吸収体が設けられていない領域は、非伸縮領域であることが望ましい。

【0030】

このような吸収性物品によれば、吸収性本体のうちの吸収体が設けられていない領域では、伸縮性を有しない非伸縮領域であるため、肌側シートが横方向に伸縮せず、着用者の肌にフィットしづらい。その結果、着用時において肌側シートと着用者の肌との間に隙間が生じて、よれや皺がより発生しやすい。そこで、当該吸収体が設けられていない領域と重なる部分を別体シート部材が有することで、当該吸収体が設けられていない領域の剛性が高まり、着用時におけるよれや皺の発生を抑制してフィット性を向上させることができる。これにより、外観上も、すっきりとした印象を与えることができる。

【0031】

かかる吸収性物品であって、前記別体シート部材は、前記一对の接合部によって、前記吸収性本体及び前記ベルト部と一体に接合されていることが望ましい。

【0032】

このような吸収性物品によれば、別体シート部材、吸収性本体、及びベルト部を、一对の接合部において一体に接合することにより、着用時における肌との接触や摩擦等の影響によって別体シート部材が吸収性本体から外れてしまうといった事態を抑制して、当該影響に左右されることなく、吸収体が設けられていない領域の剛性を高めることができる。

【0033】

＝＝＝第1実施形態＝＝＝

本発明の第1実施形態に係る吸収性物品の一例として、パンツ型の使い捨ておむつ1（以下では、単におむつ1とする）について説明する。

【0034】

<おむつ1の全体構成>

おむつ1の全体構成について、図1～図3を参照して説明する。

【0035】

図1は、本発明の第1実施形態に係るおむつ1の外観を示す概略斜視図である。

【0036】

このおむつ1は、着用時において図1に示されるようなパンツ型の形状をしている。パンツ型の状態において、おむつ1は、互いに直交する「縦方向」と「横方向」と「前後方向」とを有している。なお、縦方向のうち、着用者の胴回り側を上側（上方）とし、着用

10

20

30

40

50

者の股下側を下側（下方）とする。また、前後方向のうち、着用者の腹側を前側（前方）とし、着用者の背側を後側（後方）とする。

【 0 0 3 7 】

おむつ 1 は、縦方向に沿った吸収性本体 2 及びレッグギャザー部 3 2 と、横方向に沿ったベルト部 3 1 とを有している。おむつ 1 の縦方向の上側には胴回り開口部 H B が形成され、横方向の両側には一对の脚回り開口部 4 が形成されている。

【 0 0 3 8 】

吸収性本体 2 は、帯状であり、例えば尿等の排泄液を吸収して保持する吸収体 2 1 を内部に備えている。図 1 に示すように、パンツ型の状態のおむつ 1 では、前方の上方側に吸収性本体 2 の長手方向の一端側が位置しており、着用者の股下を介して後方の上方側に吸収性本体 2 の長手方向の他端側が位置している。なお、図 1 では、吸収体 2 1 を破線で示している。

【 0 0 3 9 】

ベルト部 3 1 は、本実施形態では、おむつ 1 の縦方向の上方側において、吸収性本体 2 の横方向の両側にそれぞれ設けられている。ベルト部 3 1 には、横方向に伸縮可能な複数の系ゴム 3 1 a が縦方向に並んで配置されている。レッグギャザー部 3 2 は、吸収性本体 2 の横方向の両側にそれぞれ設けられている。レッグギャザー部 3 2 には、縦方向に伸縮可能な複数の系ゴム 3 2 a が横方向に並んで配置されている。ベルト部 3 1 に配置された系ゴム 3 1 a やレッグギャザー部 3 2 に配置された系ゴム 3 2 a の作用によって、おむつ 1 が着用者の胴回りや脚回りにフィットする。

【 0 0 4 0 】

一对の脚回り開口部 4 の周縁 4 0 は、一对のベルト部 3 1 の縦方向の下縁と一对のレッグギャザー部 3 2 の横方向の外縁とによって形成されている。なお、必ずしも一对のベルト部 3 1 の下縁及び一对のレッグギャザー部の外縁によって一对の脚回り開口部 4 の周縁 4 0 を形成する必要はなく、例えば一对のベルト部 3 1 の縦方向の下端部及び一对のレッグギャザー部 3 2 の横方向の外端部に別のシート部材等が設けられ、当該別のシート部材等の縁によって一对の脚回り開口部 4 の周縁 4 0 が形成されていてもよい。

【 0 0 4 1 】

おむつ 1 の前方には、縦方向の上方側（胴回り開口部 H B）から脚回り開口部 4 に向かって横方向の外側へ傾斜した第 1 接合部 5 1 が、横方向に並んで一对設けられている。同様にして、おむつ 1 の後方には、縦方向の上方側から脚回り開口部 4 に向かって横方向の外側へ傾斜した第 2 接合部 5 2 が、横方向に並んで一对設けられている。第 1 接合部 5 1 及び第 2 接合部 5 2 は、吸収性本体 2 の横方向の外側端部とベルト部 3 1 の横方向の内側端部とを接合している。

【 0 0 4 2 】

一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間、及び一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間にはそれぞれ、別体シート部材が設けられている。図 1 では、一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間に設けられた別体シート部材（第 1 別体シート部材 6 1）のみを示す。また、図 1 において、第 1 別体シート部材 6 1 を網掛けで示し、第 1 別体シート部材 6 1 によって隠れた吸収性本体 2 の部分を破線で示している。なお、当該別体シート部材の詳細については、後述することとする。

【 0 0 4 3 】

次に、おむつ 1 を吸収性本体 2 の長手方向に沿って伸長させた状態における各部材の構成について、図 2 A 及び図 2 B、ならびに図 3 A 及び図 3 B を参照して説明する。

【 0 0 4 4 】

図 2 A は、吸収性本体 2 の長手方向に沿って伸長させた状態のおむつ 1 を示す平面図であり、図 2 B は、図 2 A の I I B - I I B 線断面図である。図 3 A は、製造工程の途中におけるおむつ 1 の展開状態を示す平面展開図であり、図 3 B は、図 3 A の I I I B - I I I B 線断面図である。

【 0 0 4 5 】

10

20

30

40

50

おむつ 1 は、製造工程の最終段階では図 2 A に示すような平面状態である。平面状態のおむつ 1 は、互いに直交する「長手方向」と「横方向」と「厚さ方向」とを有している。平面状態のおむつ 1 の長手方向は、吸収性本体 2 の長手方向に沿った方向であり、図 1 に示すようなパンツ型の状態のおむつ 1 の縦方向に対応する方向である。しかしながら、厳密には、パンツ型の状態のおむつ 1 の縦方向と平面状態のおむつ 1 の長手方向とは若干意味が異なるため、必要に応じて「パンツ型の状態での縦方向」、「平面状態での長手方向」等、両者を区別して扱う。

【 0 0 4 6 】

なお、図 2 A において、おむつ 1 を吸収性本体 2 の長手方向に沿って伸長させた状態とは、おむつ 1 に配置された各弾性部材（例えば、ベルト部 3 1 に配置された系ゴム 3 1 a やレッグギャザー部 3 2 に配置された系ゴム 3 2 a 等）による収縮力に抗しておむつ 1 を長手方向に伸長させた場合において、各弾性部材が配置されている部分において実質的に皺やギャザーが視認できなくなる程度まで伸長させた状態のことをいう。したがって、吸収性本体 2 の長手方向に伸長させた状態におけるおむつ 1 の形状は、各弾性部材による収縮力が発現していない状態において平坦に延びているおむつ 1 の形状と同じである。

【 0 0 4 7 】

以下の説明では、おむつ 1 を長手方向に伸長させた状態において、着用者の腹側にあたる側を長手方向の前側、着用者の背側にあたる側を長手方向の後側とする。平面状態のおむつ 1 の横方向は、パンツ型状態のおむつ 1 の横方向と同じ概念である。平面状態のおむつ 1 の厚さ方向は、長手方向及び横方向に直交する方向であり、着用者の肌と接触する側を「肌側」とし、その反対側を「非肌側」とする。

【 0 0 4 8 】

図 2 A 及び図 2 B に示すように、平面状態のおむつ 1 において、吸収性本体 2 の横方向の両側に一对のレッグギャザー部 3 2 が配置され、吸収性本体 2 の一部及びレッグギャザー部 3 2 と厚さ方向の肌側に重なるように一对のベルト部 3 1 が配置されている。

【 0 0 4 9 】

このように配置されたベルト部 3 1 及びレッグギャザー部 3 2 は、本実施形態では、図 3 A に示すように、長手方向に延びる折り返し線 F L でシート部材 3 を横方向の内側に折り返すことによって形成されている。換言すれば、シート部材 3 は、ベルト部 3 1 と、レッグギャザー部 3 2 とを備えている。図 2 A 及び図 3 A では、折り返し線 F L を二点鎖線で示している。

【 0 0 5 0 】

図 2 B 及び図 3 B に示すように、シート部材 3 は、例えば不織布等の柔軟なシート部材を厚さ方向に二枚重ねにして形成され、その間には系ゴム（例えばベルト部 3 1 側の系ゴム 3 1 a やレッグギャザー部 3 2 側の系ゴム 3 2 a ）等の弾性部材が長手方向に伸長された状態で配置されている。

【 0 0 5 1 】

図 3 B に示すように、ベルト部 3 1 の横方向の外側端部領域は、第 1 ベルト端部折り返し線 F L b 1 及び第 2 ベルト端部折り返し線 F L b 2（図 3 A に示す）にて横方向の内側に 2 回折り返され、ホットメルト接着剤等で当該折り返し状態に固定されている。すなわち、第 2 ベルト端部折り返し線 F L b 2 は、図 2 A において、ベルト部 3 1 の横方向内側端部 3 1 e i となる部分であり、胴回り開口部 H B の周縁となる部分である。

【 0 0 5 2 】

胴回り開口部 H B をこのような端部折り畳み構造とすることにより、おむつ 1 を着用する際に、着用者の胴周りにおけるストレスを軽減することができる。ただし、当該横方向端部領域は必ずしも上述のような折り畳み構造とされていなくても良い。

【 0 0 5 3 】

図 2 A に示すように、ベルト部 3 1 には、横方向の外側端部 3 1 0（折り返し線 F L）において一部が切り欠かれた切り欠き 4 1 が形成されている。同様に、レッグギャザー部 3 2 には、横方向の外側端部 3 2 0（折り返し線 F L）において一部が切り欠かれた切り

10

20

30

40

50

欠き 4 2 が形成されている。

【 0 0 5 4 】

ベルト部 3 1 側の切り欠き 4 1 とレッグギャザー部 3 2 側の切り欠き 4 2 とが組み合わされることによって、脚回り開口部 4 (図 1 参照) が形成される。本実施形態では、ベルト部 3 1 及びレッグギャザー部 3 2 はシート部材 3 に備わっているため、ベルト部 3 1 側の切り欠き 4 1 及びレッグギャザー部 3 2 側の切り欠き 4 2 (脚回り開口部 4) は、シート部材 3 を厚さ方向に貫通する貫通穴によって形成されている。また、図 2 A 及び図 3 A に示すように、ベルト部 3 1 側の切り欠き 4 1 の形状とレッグギャザー部 3 2 側の切り欠き 4 2 の形状とが多少異なっているが、必ずしもこれに限らず、同一形状であってもよい。

10

【 0 0 5 5 】

吸収性本体 2 は、図 2 B 及び図 3 B に示すように、液体を吸収して保持する吸収体 2 1 と、吸収体 2 1 よりも厚さ方向の肌側に配置された肌側シート 2 2 と、吸収体 2 1 よりも厚さ方向の非肌側に配置された外装シート 2 3 と、吸収体 2 1 と外装シート 2 3 との間に配置された非肌側シート 2 4 とを有している。

【 0 0 5 6 】

吸収体 2 1 は、液体吸収性素材が所定の形状 (例えば、平面視略砂時計形状) に成形された吸収性コアと、当該吸収性コアの外周面を被覆するコアラップシートとを備えている。液体吸収性素材としては、パルプ繊維等の液体吸収性繊維や、高吸収性ポリマー (所謂 S A P) 等の液体吸収性粒状物を例示できる。コアラップシートとしては、ティッシュペーパーや不織布等の液透過性シートを使用可能である。なお、吸収体 2 1 は、必ずしも吸収性コア及びコアラップシートを備えている必要はなく、液体を吸収して当該液体を内部に保持できる素材で形成されていけばよい。

20

【 0 0 5 7 】

肌側シート 2 2 は、例えばエアスルー不織布等の液透過性の柔軟なシート部材で形成されている。外装シート 2 3 は、例えば不織布等のシート部材で形成されている。なお、外装シート 2 3 は、必ずしも液透過性のシート部材である必要はなく、例えば液不透過性のフィルム等で形成されていてもよい。図 2 B 及び図 3 B に示すように、外装シート 2 3 は、吸収性本体 2 を構成する各部材の中で厚さ方向の最も非肌側に配置されている。非肌側シート 2 4 は、例えばポリエチレン (P E) フィルム又はポリプロピレン (P P) フィルム等の液不透過性のシート部材で形成されている。

30

【 0 0 5 8 】

肌側シート 2 2、外装シート 2 3、及び非肌側シート 2 4 は、各平面サイズが、吸収体 2 1 の長手方向の両端及び横方向の両端から突出するようなサイズである。したがって、吸収性本体 2 は、長手方向の両端及び横方向の両端にそれぞれ、吸収体 2 1 が設けられていない領域を有している。本実施形態では、当該吸収体 2 1 が設けられていない領域は、弾性部材等が配置されていない非伸縮領域である。なお、吸収体 2 1 が設けられていない領域は、必ずしも非伸縮領域である必要はない。

【 0 0 5 9 】

吸収体 2 1、肌側シート 2 2、外装シート 2 3、及び非肌側シート 2 4 は、それぞれ厚さ方向に隣り合う部材と例えばホットメルト接着剤等の接着剤で接合されている。当該接着剤の塗布パターンとしては、パターンやスパイラルパターン、ストライプパターン等が挙げられる。これは、他の接着剤の塗布パターンについても同様である。

40

【 0 0 6 0 】

図 2 A に示すように、平面状態のおむつ 1 の長手方向において、前方に位置する一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間に第 1 別体シート部材 6 1 が、後方に位置する一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間に第 2 別体シート部材 6 2 が、それぞれ設けられている。パンツ型の状態のおむつ 1 では、前後方向の前方側 (着用者の腹側) における一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間に第 1 別体シート部材 6 1 が、前後方向の後方側 (着用者の背側) における一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間に第 2 別体シート部材 6 2 が、それぞれ設けられて

50

いることとなる。

【 0 0 6 1 】

なお、パンツ型の状態のおむつ 1 において、必ずしも、前後方向の前方側に第 1 別体シート部材 6 1 が、後方側に第 2 別体シート部材 6 2 が、それぞれ設けられている必要はなく、前後方向のうち少なくとも一方側における一対の接合部の横方向の間に別体シート部材が設けられていればよい。

【 0 0 6 2 】

図 2 A 及び図 3 A に示すように、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収性本体 2 のうちの吸収体 2 1 が設けられていない領域と重なる部分を有している。当該吸収体 2 1 が設けられていない領域は、吸収体 2 1 が設けられている領域よりも剛性が低いため、おむつ 1 の着用時においてよれや皺が発生しやすい。

10

【 0 0 6 3 】

さらに、本実施形態では、前述したように、当該吸収体 2 1 が設けられていない領域が非伸縮領域であるため、当該非伸縮領域では肌側シート 2 2 が横方向に伸縮せず、着用者の肌にフィットしづらい。その結果、おむつ 1 の着用時において、肌側シート 2 2 と着用者の肌との間に隙間が生じ、吸収性本体 2 によれや皺がより発生しやすい。

【 0 0 6 4 】

そこで、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が、当該吸収体 2 1 が設けられていない領域と重なる部分を有することにより、当該吸収体 2 1 が設けられていない領域の剛性が高まり、おむつ 1 の着用時における吸収性本体 2 のよれや皺の発生を抑制してフィット性を向上させることができる。これにより、おむつ 1 の外観上も、すっきりとした印象を与えることができる。

20

【 0 0 6 5 】

図 2 B 及び図 3 B に示すように、第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収体 2 1 よりも厚さ方向の非肌側に設けられている。具体的には、第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収体 2 1 と非肌側シート 2 4 との間に設けられているが、これに限らず、少なくとも吸収体 2 1 よりも非肌側に設けられていればよい。また、本実施形態では、第 1 別体シート部材 6 1 も、第 2 別体シート部材 6 2 と同様に、吸収体 2 1 よりも非肌側に設けられている。第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 の詳しい位置関係については、後述することとする。

30

【 0 0 6 6 】

このように、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が吸収体 2 1 よりも非肌側に設けられている場合には、図 2 A 及び図 3 A に示すように、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収体 2 1 が設けられた領域と重なる部分を有しているもよい。

【 0 0 6 7 】

一方、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が吸収体 2 1 よりも肌側に設けられている場合（第 2 実施形態の場合）には、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収体 2 1 が設けられた領域に重ならないように配置することが望ましい。なぜなら、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が着用者の排泄口と吸収体 2 1 との間に介在することにより、吸収体 2 1 への液体の円滑な吸収の妨げとなる可能性があるからである。

40

【 0 0 6 8 】

したがって、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が吸収体 2 1 よりも非肌側に設けられている場合には、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 が吸収体 2 1 よりも肌側に設けられている場合と比べて、より大きなサイズのシート部材を用いることが可能となるため、吸収性本体 2 のより広い領域において剛性が高まり、おむつ 1 の着用時における吸収性本体 2 のよれや皺の発生をより抑制してフィット性を向上させることができる。これにより、おむつ 1 の外観上も、よりすっきりとした印象を与えることができる。

50

【 0 0 6 9 】

第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 には、例えば不織布等の通気性のよいシート部材を用いることができ、好ましくはスパンボンド不織布、SMS 不織布等の比較的剛性の高いシート部材がよい。なお、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、必ずしも不織布等である必要はなく、少なくとも吸収性本体 2 のうちの吸収体 2 1 が設けられていない領域の剛性を高めることが可能な部材であればよい。

【 0 0 7 0 】

図 3 A に示すように、おむつ 1 の製造工程の途中では、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 はそれぞれ、平面状態でのおむつ 1 における横方向に長辺を有し、長手方向に短辺を有する長方形状であり、吸収性本体 2 及びシート部材 3 の一部（レッグギャザー部 3 2）と厚さ方向に重なるように配置されている。ただし、当該長方形状の第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、配置された際に脚回り開口部 4 と重ならないように短辺方向の幅が調整されている。また、当該長方形状の第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 は、長辺方向の幅が、横方向に並ぶ折り返し線 F L の間の距離と等しく設定されている。

【 0 0 7 1 】

本実施形態では、第 1 別体シート部材 6 1 は、一对の第 1 接合部 5 1 によって、吸収性本体 2 及びシート部材 3 と一体に接合されている。具体的には、第 1 別体シート部材 6 1 を吸収性本体 2 及びシート部材 3 に例えばホットメルト接着剤等の接着剤によって接合させた上で、シート部材 3 を折り返し線 F L で横方向の内側に折り返して一对の第 1 接合部 5 1 を形成する。第 1 接合部 5 1 は、吸収性本体 2 の長手方向の前端から横方向の外側へ向かって折り返し線 F L まで延びている。

【 0 0 7 2 】

第 2 別体シート部材 6 2 についても、第 1 別体シート部材 6 1 と同様に、一对の第 2 接合部 5 2 によって、吸収性本体 2 及びシート部材 3 と一体に接合されている。第 2 接合部 5 2 は、吸収性本体 2 の長手方向の後端から横方向の外側へ向かって折り返し線 F L まで延びている。図 3 A では、第 1 接合部 5 1 及び第 2 接合部 5 2 をそれぞれ、一点鎖線で示している。

【 0 0 7 3 】

第 1 接合部 5 1 及び第 2 接合部 5 2 における接合方法としては、熱溶着や超音波溶着等の公知の溶着手段が挙げられるが、これに限らず、例えばホットメルト接着剤等の接着剤を用いてもよい。

【 0 0 7 4 】

なお、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 はそれぞれ、吸収性本体 2、ベルト部 3 1、及びレッグギャザー部 3 2 と一体に接合されているが、必ずしもこれに限らず、少なくとも吸収性本体 2 及びベルト部 3 1 と一体に接合されていればよい。

【 0 0 7 5 】

第 1 別体シート部材 6 1、吸収性本体 2、及びベルト部 3 1 を一对の第 1 接合部 5 1 において一体に接合することにより、おむつ 1 の着用時における肌との接触や摩擦等の影響によって第 1 別体シート部材 6 1 が吸収性本体 2 から外れてしまうといった事態を抑制し、着用時におけるこのような影響に左右されることなく、吸収体 2 1 が設けられていない領域の剛性を高めることが可能となる。このことは、第 2 別体シート部材 6 2 についても同様である。

【 0 0 7 6 】

第 1 別体シート部材 6 1、吸収性本体 2、及びシート部材 3 を第 1 接合部 5 1 によって接合し、第 2 別体シート部材 6 2、吸収性本体 2、及びシート部材 3 を第 2 接合部 5 2 によって接合した後、第 1 接合部 5 1 及び第 2 接合部 5 2 よりも横方向の外側に延出する部分を第 1 接合部 5 1 及び第 2 接合部 5 2 に沿って切断することにより、図 2 A に示すような平面状態のおむつ 1 が形成される。

【 0 0 7 7 】

このような平面状態のおむつ 1 における一对のベルト部 3 1 の横方向の内側端部 3 1 e i 同士を横方向の外側に向かって引っ張りながら開き、吸収性本体 2 を長手方向の中央位置 C L 付近で二つ折りすることにより、図 1 に示すようなパンツ型のおむつ 1 として着用可能な状態となる。図 2 A 及び図 3 A では、中央位置 C L を一点鎖線で示している。

【 0 0 7 8 】

< 第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 の位置関係について >

次に、第 1 別体シート部材 6 1 及び第 2 別体シート部材 6 2 の位置関係について、図 4 A 及び図 4 B ならびに図 5 を参照して説明する。

【 0 0 7 9 】

図 4 A 及び図 4 B は、おむつ 1 の概略平面図であり、図 4 A は、おむつ 1 を前方から見た場合、図 4 B は、おむつ 1 を後方から見た場合を示している。図 4 A 及び図 4 B では、吸収体 2 1 を破線で示している。図 5 は、おむつ 1 を縦方向に切断した場合の断面模式図である。

【 0 0 8 0 】

前方側（着用者の腹側）において、一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間に設けられた第 1 別体シート部材 6 1 は、図 5 に示すように、吸収性本体 2 の外装シート 2 3 よりも非肌側に設けられている。第 1 別体シート部材 6 1 は、表面（外部に露出している側の面）に例えば青色や赤色等の色が付されている。なお、第 1 別体シート部材 6 1 は、必ずしも当該表面全体に色が付されている必要はなく、他に、例えば模様等が施されていてもよい。すなわち、第 1 別体シート部材 6 1 は、少なくとも一部に色が付されていればよい。

【 0 0 8 1 】

後方側（着用者の背側）において、一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間に設けられた第 2 別体シート部材 6 2 は、図 5 に示すように、吸収性本体 2 の吸収体 2 1 と非肌側シート 2 4 との間に設けられている。したがって、第 2 別体シート部材 6 2 は外部に露出していないため、外観上、第 2 別体シート部材 6 2 が目立つことがなく、よりすっきりとしたおむつ 1 の印象を与えることができる。

【 0 0 8 2 】

なお、本実施形態では、第 2 別体シート部材 6 2 は、吸収体 2 1 と非肌側シート 2 4 との間に設けられているが、これに限らず、例えば外装シート 2 3 と非肌側シート 2 4 との間に設けられていてもよい。

【 0 0 8 3 】

図 4 A に示すように、おむつ 1 を前方から見た場合、一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間の領域 5 1 a では、色が付された第 1 別体シート部材 6 1 を確認することができる。一方、図 4 B に示すように、おむつ 1 を後方から見た場合、一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間の領域 5 2 a では、吸収性本体 2 の外装シート 2 3 を確認することができる。これは、前述したように、第 2 別体シート部材 6 2 が吸収性本体 2 の内部（外装シート 2 3 よりも肌側）に配置されていることによる。

【 0 0 8 4 】

そして、本実施形態では、外装シート 2 3 は着色されておらず、特に模様等も施されていない。つまり、外部からおむつ 1 を見た場合、当該おむつ 1 は、第 1 別体シート部材 6 1 以外の部分は着色されていない状態である。

【 0 0 8 5 】

したがって、おむつ 1 は、前方側における一对の第 1 接合部 5 1 の横方向の間の領域 5 1 a の色と後方側における一对の第 2 接合部 5 2 の横方向の間の領域 5 2 a の色とが異なっている。色が付された第 1 別体シート部材 6 1 が外装シート 2 3 よりも非肌側に設けられていることにより、着用者は外部から第 1 別体シート部材 6 1 を容易に視認することが可能となり、おむつ 1 を着用する際、第 1 別体シート部材 6 1 の色を手掛かりとして、おむつ 1 の前後方向の判断を容易にすることができる。

【 0 0 8 6 】

ここで、例えば、おむつ 1 を構成する各部材において、白色の状態を「色を付していな

10

20

30

40

50

い（着色していない）状態」とし、白色以外の色の状態が「色を付している（着色している）状態」と捉えることが可能である。また、「色を付す」ことには、例えば黒色（白色以外の色）の状態が通常であるものに対して白色を付す場合についても含まれるものとする。

【0087】

なお、前方側における一对の第1接合部51の横方向の間の領域51aの色と後方側における一对の第2接合部52の横方向の間の領域52aの色とが異なっているおむつ1の態様については、前述した態様の他にいくつか考えられる。

【0088】

例えば、前方側では、外装シート23よりも非肌側に設けられた第1別体シート部材61を着色せず、後方側では、少なくとも一对の第2接合部52の横方向の間の領域52aにおいて外装シート23に色を付すことも可能である。

【0089】

また、必ずしも第1別体シート部材61が外装シート23よりも非肌側に設けられている必要はなく、例えば第1別体シート部材61が吸収体21と外装シート23との間に設けられ、第2別体シート部材62が外装シート23よりも非肌側に設けられていてもよい。この場合、前方側では、一对の第1接合部51の横方向の間の領域51aにおいて外装シート23を着色せず、後方側では、第2別体シート部材62の少なくとも一部に色を付すことも可能である。

【0090】

さらに、必ずしも、第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62のうちいずれか一方が外装シート23よりも非肌側に設けられ、他方が吸収体21と外装シート23との間に設けられている必要はなく、例えば、第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62のそれぞれが外装シート23よりも非肌側に設けられていてもよい。この場合、第1別体シート部材61の色（例えば赤色）と第2別体シート部材62の色（例えば青色）とを異なる色に着色することで、おむつ1の前後方向を判断することができる。

【0091】

その他にも、第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62のそれぞれが吸収体21と外装シート23との間に設けられていてもよい。この場合、一对の第1接合部51の横方向の間の領域51aにおける外装シート23の色と一对の第2接合部52の横方向の間の領域52aにおける外装シート23の色とを異なる色にすることで、おむつ1の前後方向を判断することができる。

【0092】

ただし、おむつ1の前後方向の判断を容易にするためには、少なくとも第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62のうちいずれか一方が外装シート23よりも非肌側に設けられていることが望ましい。

【0093】

おむつ1の前後方向の判断を容易にするための色の付し方について例示してきたが、おむつ1において、前方側における一对の第1接合部51の横方向の間の領域51aの色と後方側における一对の第2接合部52の横方向の間の領域52aの色とが異なっていれば、色の付し方について特に制限はない。

【0094】

＝＝第2実施形態＝＝

次に、本発明の第2実施形態に係るおむつについて、図6A及び図6Bならびに図7を参照して説明する。

【0095】

図6A及び図6Bは、第2実施形態に係るおむつを示し、図6Aは、製造工程の途中におけるおむつの展開状態を示す平面展開図であり、図6Bは、図6AのVI B - VI B線断面図である。図7は、第2実施形態に係るおむつを縦方向に切断した場合の断面模式図である。

10

20

30

40

50

【0096】

本実施形態に係るおむつは、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64の構成が第1実施形態に係るおむつ1の第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62の構成と異なり、その他の構成については同様である。図6A及び図6Bならびに図7において、第1実施形態に係るおむつ1について説明したものと共通する構成要素については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0097】

本実施形態に係るおむつでは、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64は、吸収体21よりも肌側に設けられている。具体的には、図6B及び図7に示すように、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64は、肌側シート22よりもさらに肌側に設けられている。すなわち、着用者がおむつを着用した際には、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64が着用者の肌に接触する。

10

【0098】

これにより、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64が外部に露出していないため、外観上、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64が目立つことがなく、よりすっきりとしたおむつの印象を与えることができる。

【0099】

なお、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64が吸収体21よりも肌側に設けられている場合には、図6Aに示すように、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64はそれぞれ、吸収性本体2のうち吸収体21が設けられた領域に重ならないように配置する必要がある。これにより、当該おむつでは、着用者の排泄口と吸収体21との間において第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64が介在しないため、尿等の排泄液を吸収体21にすばやく吸収させることができる。

20

【0100】

図7に示すように、第1別体シート部材63は、吸収性本体2に接合されていない非接合部632を縦方向の下端側に、吸収性本体2に接合された接合部631を非接合部632よりも上方側に、それぞれ有している。第2別体シート部材64は、第1別体シート部材63と同様に、非接合部642を縦方向の下端側に、接合部641を非接合部642よりも上方側に、それぞれ有している。接合部631、641は、図6Aに示すように、例えばホットメルト接着剤等の接着剤がストライプ状に塗布されることにより、吸収性本体2と接合している。

30

【0101】

図7に示すように、第1別体シート部材63の非接合部632と肌側シート22（吸収性本体2）との間には、縦方向の下方に開口する空間632aが形成され、第2別体シート部材62の非接合部642と肌側シート22（吸収性本体2）との間には、縦方向の下方に開口する空間642aが形成されている。空間632a、642aはそれぞれ、外部に開放した空間である。

【0102】

このように、第1別体シート部材63の非接合部632と吸収性本体2との間に空間632aが、第2別体シート部材64の非接合部642と吸収性本体2との間に空間642aが、それぞれ形成されていることにより、吸収性本体2の長手方向に沿って肌側シート22の肌側面を伝った尿等の液体を空間632a、642aにて受け止めることができ、液体の漏れを抑制することができる。なお、この場合、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64は、液体を透過しにくいシート部材であることがより好ましい。

40

【0103】

さらに、例えば帯状の吸収パッド7（図7において二点鎖線で示す）を本実施形態に係るおむつに用いるような場合であっても、当該吸収パッド7の長手方向の一端部73を空間632a内に、他端部74を空間642a内に、それぞれ収容することができるため、吸収パッド7を収容するための収容空間を別途設ける必要がない。すなわち、本実施形態に係るおむつには、別体の吸収パッド7を適用することも可能となる。

50

【0104】

図6Aに示すように、第1別体シート部材63の非接合部632には系ゴム632bが、第2別体シート部材64の非接合部642には系ゴム642bが、それぞれ横方向に伸長された状態で接合されていてもよい。図6Aでは、系ゴム632b、642bを破線で示している。なお、必ずしも系ゴムである必要はなく、横方向に伸縮可能な弾性部材であれば特に制限はない。

【0105】

第1別体シート部材63の非接合部632に系ゴム632bが、第2別体シート部材64の非接合部642に系ゴム642bが、それぞれ接合されていることにより、第1別体シート部材63の非接合部632及び第2別体シート部材64の非接合部642がそれぞれ横方向に収縮し、空間632a内に收容される吸収パッド7の一端部73との間の隙間、及び空間642a内に收容される吸収パッド7の他端部74との間の隙間が埋まる。これにより、吸収パッド7の一端部73及び他端部74が、空間632a、642a内から抜け落ちることを抑制することが可能となる。

10

【0106】

== 第3実施形態 ==

次に、本発明の第3実施形態に係るおむつについて、図8を参照して説明する。

【0107】

図8は、第3実施形態に係るおむつを縦方向に切断した場合の断面模式図である。

【0108】

本実施形態に係るおむつは、第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64の位置関係が第1実施形態に係るおむつ1の第1別体シート部材61及び第2別体シート部材62の位置関係、ならびに第2実施形態に係るおむつの第1別体シート部材63及び第2別体シート部材64の位置関係と異なり、その他の構成については同様である。図8において、第1実施形態に係るおむつ1について説明したものと共通する構成要素については、同一の符号を付してその説明を省略する。

20

【0109】

本実施形態に係るおむつでは、第1別体シート部材65が吸収体21よりも非肌側に設けられ、第2別体シート部材66が吸収体21よりも肌側に設けられている。具体的には、図8に示すように、第1別体シート部材65が外装シート23よりもさらに非肌側に設けられ、第2別体シート部材66が肌側シート22よりもさらに肌側に設けられている。

30

【0110】

前方側に設けられた第1別体シート部材65の吸収体21に対する配置位置と後方側に設けられた第2別体シート部材66の吸収体21に対する配置位置とを変えることにより、前方側の構造と後方側の構造との違いを手掛かりとして、おむつの前後方向の判断を容易にすることができる。

【0111】

なお、他に、第1別体シート部材65が吸収体21よりも肌側に設けられ、第2別体シート部材66が吸収体21よりも非肌側に設けられていてもよい。すなわち、前方側の第1別体シート部材65及び後方側の第2別体シート部材66のうちいずれか一方が吸収体21よりも非肌側に設けられ、他方が吸収体21よりも肌側に設けられていればよい。

40

【0112】

また、第1別体シート部材65は、少なくとも一部に色が付された状態で外装シート23よりも非肌側に設けられている。したがって、本実施形態に係るおむつを前方から見た場合、着用者は色が付された第1別体シート部材65を確認することができ、当該おむつを後方から見た場合、着用者は着色されていない外装シート23を確認することができる。すなわち、本実施形態に係るおむつについても、第1実施形態に係るおむつ1と同様に、前方側における一対の第1接合部51の横方向の間の領域51aの色と後方側における一対の第2接合部52の横方向の間の領域52aの色とが異なっている。

【0113】

50

これにより、本実施形態に係るおむつは、色が付された第 1 別体シート部材 6 5 が外装シート 2 3 よりも非肌側に設けられていることにより、着用者は外部から第 1 別体シート部材 6 5 を容易に視認することが可能となり、当該おむつを着用する際、第 1 別体シート部材 6 5 の色を手掛かりとして、当該おむつの前後方向の判断を容易にすることができる。

【 0 1 1 4 】

= = = その他 = = =

上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれることは言うまでもない。

10

【符号の説明】

【 0 1 1 5 】

1 ... おむつ (吸収性物品)

2 ... 吸収性本体

4 ... 脚回り開口部

2 1 ... 吸収体

2 2 ... 肌側シート

2 3 ... 外装シート

2 4 ... 非肌側シート

3 1 ... ベルト部

5 1 ... 第 1 接合部

5 1 a ... 一对の第 1 接合部の横方向の間の領域

5 2 ... 第 2 接合部

5 2 a ... 一对の第 2 接合部の横方向の間の領域

6 1 , 6 3 , 6 5 ... 第 1 別体シート部材

6 2 , 6 4 , 6 6 ... 第 2 別体シート部材

6 3 2 , 6 4 2 ... 非接合部

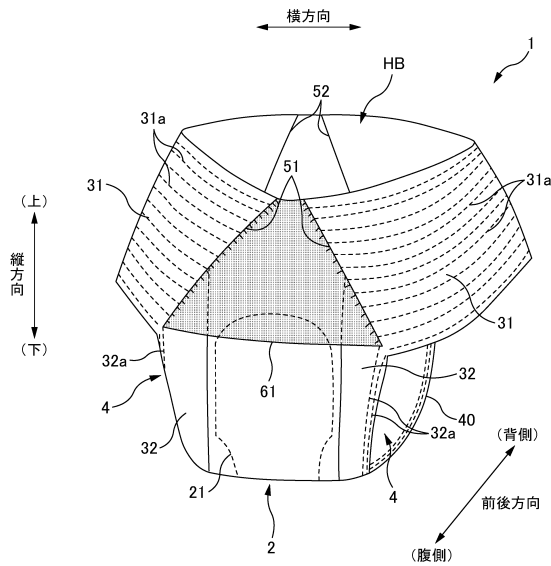
6 3 2 a , 6 4 2 a ... 空間

6 3 2 b , 6 4 2 b ... 糸ゴム (弾性部材)

20

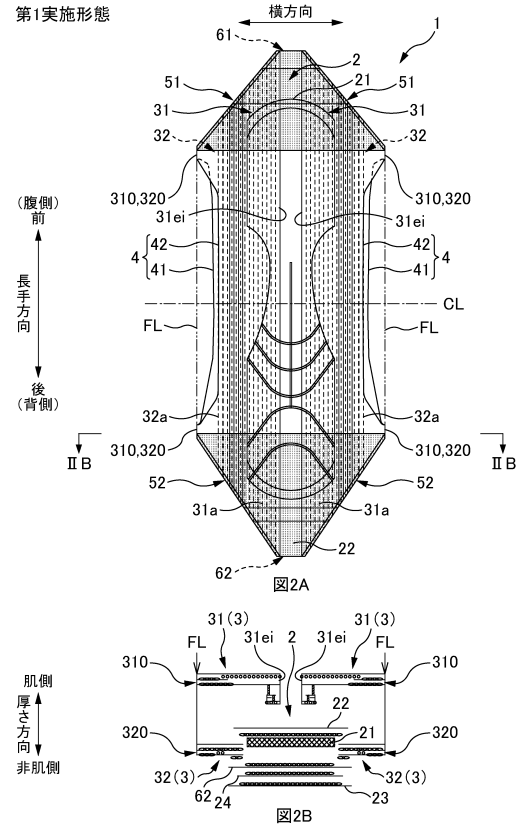
【図 1】

第1実施形態



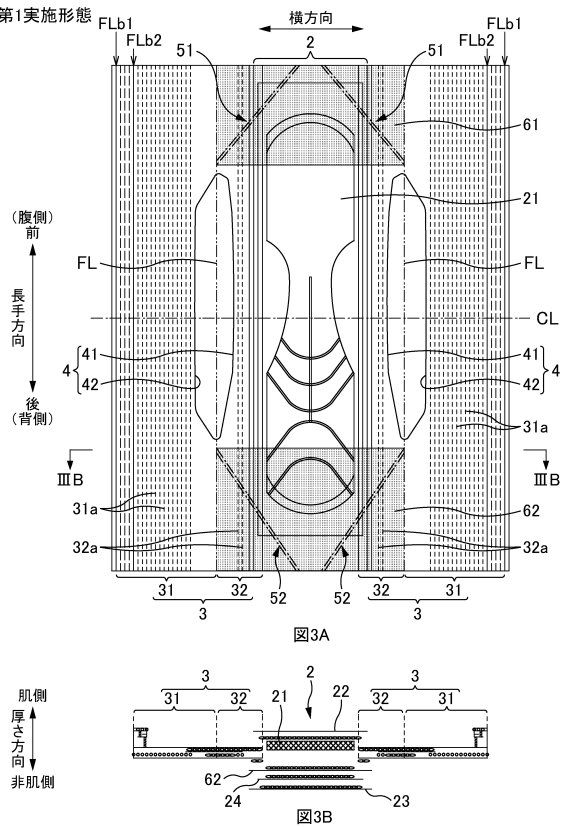
【図 2】

第1実施形態



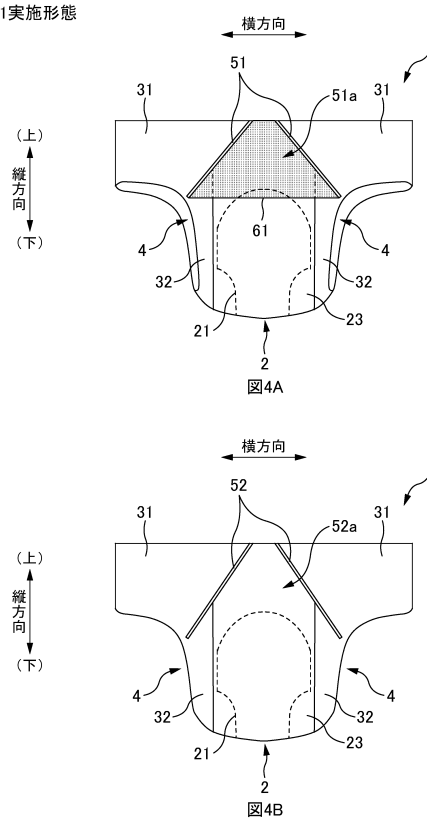
【図 3】

第1実施形態



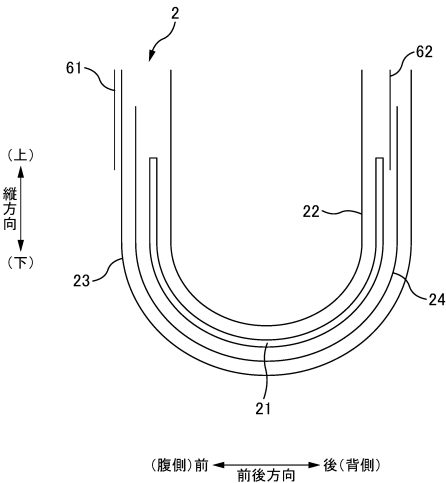
【図 4】

第1実施形態



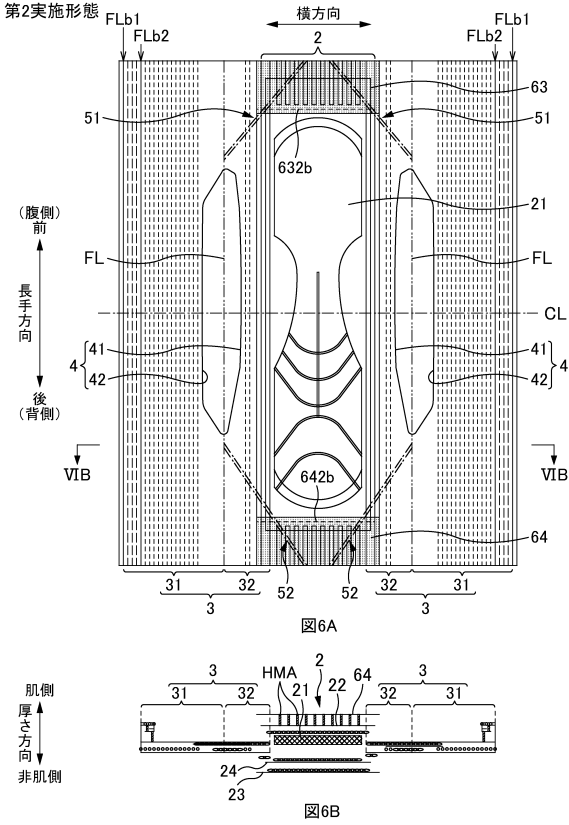
【図 5】

第1実施形態



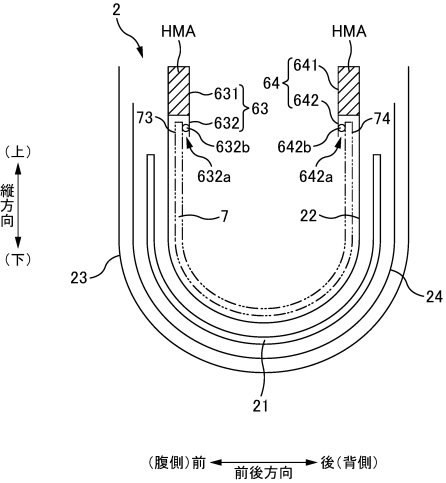
【図 6】

第2実施形態



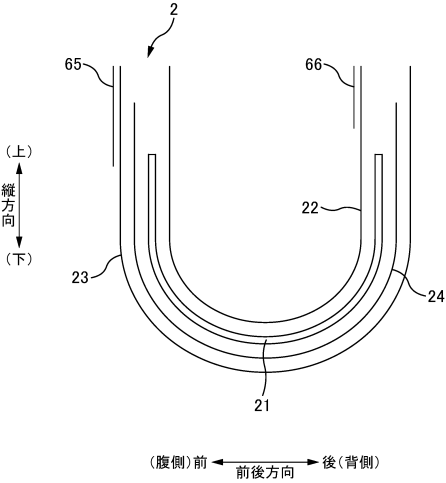
【図 7】

第2実施形態



【図 8】

第3実施形態



フロントページの続き

(72)発明者 藤本 和也

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

(72)発明者 田中 嘉則

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

審査官 米村 耕一

(56)参考文献 特開平 9 - 2 9 0 0 0 3 (J P , A)

特開 2 0 0 4 - 2 9 8 3 6 2 (J P , A)

特開 2 0 0 4 - 2 5 4 8 6 2 (J P , A)

特開 2 0 0 9 - 2 0 7 7 7 8 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 6 1 F 1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4

A 6 1 L 1 5 / 1 6 - 1 5 / 6 4